



## 第拾壹卷第參號

### 幼稚園に關する諸問題

東京高等師範學校教授 佐々木吉三郎

左の一篇は佐々木教授が特に本會の爲に御談話下された筆記であります。此の廣汎なる問題に對し、爾後六七回に涉つて續いて御話下さる筈であります。(編者)

私は、幼稚園に經驗のない全くの素人でありまして、幼稚園の研究を特に委しくして見た事ありませんから、専門の方々には参考になりさうな事をお話する事の出来る筈もありませんが、だ、素人の幼稚園談としてお読み下さる事を希望いたします。

幼稚園は必要であるか、なきかと云ふ問題もあるやうですが、まあ、田舎の家庭のやうに、両親の外に、祖父母又は曾父母等もあり、大勢の家族が一家をなして居る場合には、小學校に入學する以前の幼兒を相手として、適當な世話をする人に事かきませぬし、また、子供が遊ぶにしても、田もあり、畑もあり

野もありと云ふやうなわけで、特別の建物のある處に通うてゆかなければならぬといふ必要もありませぬから、そんな事情の處では、幼稚園といふものはなくとも濟むものであらうと私は考へます無論立派な、適當な幼稚園のあるにこした事はなけれど、なくとも、濟むものであらうと思ふのであります。ところが、やゝ大なる町とか、市とか云ふ處になつたり、もしくは、たとひ田舎でも、大製造所の附近で、大勢の労働者が、殆ど、師團か、町かのやうな状態を形つくつて居る所などでは、周囲の事情が甚だ不健全で、建物が密集して、子供等の遊ぶ場所もなければ、空氣が不潔であり、外部には悪影響を與へる誘惑物に富んで居り、其他、子供等が、草とか、木とか、虫とか鳥とか云ふ自然物に接する機會がなくて、始終狭く居るしい人込みの中、建物等の中に小さくなつて居なければならぬと云ふやうな處では、どうしても、相當な位置に、相當な建物をこしらへて、庭

もあり、遊び道具もあるといふやうな中で、子供のもつて生れた天性を順當にのばしてやるといふ事が必要になつてきます、また、家庭の事情から云うても、大都會になればなるほど、昔流儀の、一家眷族悉く共に住んで居るといふ家庭は少くなる、祖父母が田舎に居るとか、兄弟住所を異にして居るとか云ふ事が多くあります、また、製造場等になつて見ると、多くは、日中は、夫婦共に労働に忙はしくて、子供の世話は到底出来ないといふやうな有様であるから、どうしても、幼稚園は缺くべからざる教育機關であるといふ事になります。そこで、幼稚園の必要な事は、大體に、實際上から考へられるのでありますが、しからば、一歩きりこんで、多少委しく、如何なる任務を果すを以て、幼稚園の仕事、もしくは、目的とすべきものであるか、學校といふものと比べて、どんなに違ふかといふやうな點が、明かにならなければな

りませぬ。まづ、最も消極的な方から云つて見ると、まだ無勘辨な、しかも、そろ／＼腕白に近くなつてくる三四五六歳の幼児を、危険界から遠けるといふ事が一つの任務でなければなりません。しかし、それは、極めて消極的の目的の一つであつて、怪我をさせずにおけば、幼稚園の任務は盡きたものかと云へば、さうは云へまいと思ふのであります。しからば、積極的に、どんな任務があるか、獨逸の博士ライン氏はかう云ふ事を云ふて居ります。「幼稚園の主要目的は、子供を教授する」と云ふ事ではなくて、寧ろ、子供の内部に潜んで居る衝動を發達させ、指導し、固定するにあり」とかう申立て居りますが、つまり、子供の衝動を本にして、なるべく自然に、順當にのびさせると云ふのが適當であつて、學校と趣を異にするのは此點にあると思ひます。即ち幼稚園では、重きを、兒童の天性において、そのもつて居る力、氣質、性癖等に從ひて、差支ない限りは、なるべく、そ

れを重んじて、まづ、一通り發達させるといふ事が大切であります。即ち、幼稚園は、子供本位で學校は、それに對すると、材料本位とでも云ひ得るだらうと思ひます。學校では、これだけの事を教へやう、教へねばならぬと云ふ方が、だん／＼あらはれてくるが、幼稚園では、そんなに、一定の仕事の子供に課する必要がありません。寧ろ、子供が、嬉々として、愉快に遊んで居れば、それで、大體よろしいのであります。無論、かう申したからと云つて、小學校は、兒童の性質を全く省みる必要がないとか、幼稚園は、兒童の御機嫌を取つて居さへすればよいといふのではありませぬが、どちらに重きをおくべきかと云へば、前申したやうな大體の區別が立てられると思ふのであります。フレーベルなども、始終、かう云ふ主意をいたる處に述べて居ります。「余は、あらゆるものを、子供から學んだ。そして、なほ、子供から學びつつある。余は、子供等の生活から、自分に感受し

たものを、再び、子供等にかへすだけの仕事をし  
て居る」と申して居ります。云ふ心は、幼稚園を  
指導するものが、斯くあらざるべからずとか、斯  
くあるべきであると云ふ自分の了簡に執着して、  
兒童に強い事があつてはならぬと云ふ意味で、  
その他の場所においては、かういふ事をも云ふて  
居ります。「子供が大きくなるのには、外のものは  
要らないが、自分で働らき、自分で作り、何事も、  
自ら好んで、その事に當る時に限る」と此言も、  
つまり、如何に、フレーベルが、子供の自主自動  
に重きをおいたかと云ふ事を見るに足るべきもの  
であらうと思ひます。

以上述べました所は、幼稚園の目的が、大體の風  
として、小學校など、違ふといふ點を申したも  
のではありませんが、我れくは、も一步深く進んで、  
幼稚園が、子供等の體育上、智育上、德育上、美  
育上、如何なる任務を有して居るかを一考して見  
なければならぬと思ひます。

一、體育

私は、幼稚園に於ける主なる仕事は、體育にある  
と云ふ事を固く信じます。智育も、德育も、美育  
も、體育が出来てからの事で、また、子供が、も  
つと大きくなつてからの仕事とも見る事が出来ま  
す。體育は、さういふわけにゆきませぬ。學校期  
以前の子供は、何が仕事かと云へば、喰つて、遊  
んで、眠つて居る事で、つまり、身體を丈夫にする  
のが仕事であります。幼稚園は、先き程申した通  
り子供の相手をして、監督する老人や何かのない  
家庭の代りに、云はい守りをしてやるやうな性質  
のものでありますから、よけいな事を授けたり、  
なんかして、小さな大人をこしらへたり、神經過  
敏な子を製造したりせぬやうに、なるべく、身體  
の自然な發達をするやうに注意する事が肝要であ  
らうと思ひます。それで、幼稚園の重なる仕事は、  
子供等をして、心から楽しく遊ばせるといふ事  
でなければなりません。遊戯とか、作業とか云ふも

のも、學校に於ける課業時間のやうに、教師がむやみに、ひきまはさなくてもよろしい。もし、庭も廣く、建物も廣かつたならば、なるべく干渉をせず、自由に遊ばせるのが結構であつて、それが出来ないのは、全く庭が狭かつたり、建物が小さかつたりする爲めに、大勢の子供を、そこに放し置いておいただけでは、三十分や、四十分は、どうにか遊んで居るけれど、もう、二時間目か、三時間目には、倦きてしまつて、遊びやうがなくなるといふ所から、嫁母の方々も、已むを得ず變化をつける爲めに、今度はお話、今度は折紙、今度は書をかくなど、工夫をするので、もし、山か、野原があつて、そこにおつぱり出して、勝手に、花を摘むなり、蝶を追ひまはすなり、鬼ごつこをするなり、かくれんぼをするなり、させて、晩まで、も遊べるやうになつたら、それは、理想的幼稚園であります。理想は寧ろそこにあるのであります。彼の美術學校の生徒でもこしらへたやうな

組み紙とか、切り抜きとか、いろ／＼奇麗な成績品を並べて、これが、幼稚園の立派な所で御座るなど、云ふのは、随分、その任務をはき違へたものと云はなければならぬ。遊戯室などを見ても、塵のたつやうな所に、監獄の窓でもあるかのやうな、僅かな日光の入る小窓のみあつたり、また、床板には、幾何學の稽古の筆の跡を見るやうに、圓や、四角や、十字形などが、やたらに引いてあつて、兒童は、その筋の上をあるかなければならぬといふやうに、まるで、甘日鼠の調練か、山がらの藝當でもさせるやうな事をして、子供の自由活動を束縛するなどは、よほど考へなければならぬ事でありませう。私は、なるべく自然な遊戯、なるべく自然な作業をさせて、その間に、身體をだん／＼に丈夫にし、將來、勞働を愛する國民になるやうに、また、練れた身體を以て、一舉一動、きび／＼と小氣味のよい活動の出来るやうに、姿勢も正しい、どことなく、のんびりして居るとい

ふ子供で、寒暑の氣候にも抵抗し得る、血色のよい、活き／＼とした子供を仕立てるのを理想としたいと思ふのであります。

## 注意の話 (承前)

文學博士 元良勇次郎

### (六) 讀書と注意

(イ) 注意集中と其の背景

(ロ) 讀書の場合

注意の集中といふことは、單に精神作用のみで説明することは出来ぬ。其の背景たる生理状態が大に影響する。されば注意して讀書するにしても生理状態の變化によりて早く解し得るときは遅き時との別もあり、亦注意のよく集るときと、集りの鈍きときのあるのは明かである。次に讀書の場合に於て、其の生理的状態の影響が其の氣分に關係してそれから作用に鋭鈍を生ずると云ふこと

の全く外に、尙ほ次の如き二ツの場合がある。それは現に讀みつゝあるときの事柄を前以て知つて居るといふ場合は餘程早く了解して來ることである。又一ツは何回も重ねて讀んで居れば次第には了解して來ることである。一讀よりも再讀、再讀よりも三讀と次第に難解の文章も了解することが出来る様になるものである。讀書百回意自通すと云ふことは虚でないのである。讀書百回意自通すと云ふことは虚ではない。

### (七) 背景

背景といふは前述の如く一面に於て生理的作用が精神的注意作用に及ぼす影響を名づけて云ふたので、教育上に於ては最も此の修練に力を用ひなければならぬことである。如何によく教授し訓練して行かうとおもつても、單に精神的方面のみの教授訓練では何等の効はないのである。そこで私が拵へた注意練習器は實は其の用に立てんが爲めである。然るに世の人はあの器械を誤解して、單